国際ロータリー第２７５０地区
東京多摩グリーンロータリー・クラブ
２０１１～２０１２年度

# 会報

愛と笑いで創ろう友の和・広げよう奉仕の輪

２０１２．０４．１１．第１００９回例会　No.２２－３７　２０１２．０４．１８発行

◎司会　　ＳＡＡ・親睦委員会　三田 みよ子
◎ 点 鐘　　会 長　小 泉　博
◎ロータリーソング　「我等の生業」
　　ソングリーダー　菊池　敏
◎お客様紹介　　会長　小泉　博
　多摩市長　　阿部　裕行様
　堤会員ご家族　　じゅんぺい君
◎会務報告　　会長　小泉　博
＊6月13日関岡会員にお願いして坐禅会を予定しています。こちらの坐禅会は夜例会とさせていただきます。
＊次週４月18日、例会前に臨時理事会を行います。役員理事はご予定ねがいます。
＊配布物：奉仕プロジェクト企画会議のまとめ
ガバナー月信４月号、ロータリーの友
社会福祉協議会チャリティーゴルフの案内
＊回覧　：青少年交換派遣生の細谷さんの月次レポート
東京府中 RC50 周年のお礼状
東京広尾 RC 第３回チャリティゴルフの案内

☆斉藤会員の手術は無事終了復帰され、本日出席されております。おめでとうございます！

◎次年度会務報告　　次年度　副会長　伊澤ケイ子
来週４月18日例会後事務局におきまして定例被選理事会を開催します。また午後６時より第２回被選クラブ運営管理連絡会議を行います。委員長さんが欠席の場合は代理をお願いします。委員会の活動計画の提出は本日までとなっています。宜しくお願いいたします。

【　委員会報告　】

◎出席報告　　出席奨励委員長　菊池　敏

| | | |
|---|---|---|
| 会員総数 | | ３５名 |
| 出席義務者数 | | ２５名 |
| 出席者数 | 出席義務者 | １２名 |
| | 事前 MU | ４名 |
| | 出席義務免除者 | ３名 |
| | 事前MU | ３名 |
| | 計 | ２２名 |

出席率　22/30　＝　７３．３３％
第 1007 回例会（3/28）訂正出席率　８０．６５％

◎ニコニコBOX　　ＳＡＡ・親睦委員会　山田　文夫
小泉　博　皆さんコンニチワお客様ようこそ
阿部市長卓話宜しくお願いします。
楽しみにしておりました。
大松　誠二　阿部市長、ようこそ。
卓話よろしくお願いします。
伊澤ケイ子　多摩市長　阿部様　卓話よろしくお願いいたします。
菊池　敏　阿部市長さん卓話楽しみにしております。
村上　久　阿部市長卓話楽しみにしています。
齋藤　誠壽　やっと釈放されました。
関岡　俊二　阿部市長卓話楽しみにしています。
海野　榮一　阿部市長の卓話楽しみです。

**本日の合計¥　１８，０００（累計¥７５０，０８０　）**
※市長より卓話の謝礼をニコニコに寄付して頂きました。

◎その他委員会

☆カンボジア　アンコール小児病院支援
実施委員長　関岡　俊二
小児病院にはたくさんの子供たちが診療に来ます。その子供たちに遊具を進呈しようと、7 種類くらいの遊具を検討しましたが衛生上の理由により拭き取りやすさなどを考慮して 3 種類を選び、合計 20 点を発送する事になりました。先日皆様から集まりました 106.250 円を合わせ合計 306,250 円の予算をもって送りたいと思います。製品にクラブ名を入れられないのでロータリーマークのシールを貼りたいと思っています。後日例会の時に全員の写真を撮りまして写真も先方に送る予定でいます。

☆ゴルフ同好会　　部長　海野　榮一
第２１回多摩市福祉協議会チャリティ-ゴルフ大会の案内が来ています。当クラブにも 3 組 12 名の依頼が来ておりますが本日は出席者が少ないため来週申込書を配布いたします。
開催日　平成 24 年 6 月 25 日
開催場所　桜ヶ丘カントリークラブ

◎卓話者紹介　　プログラム委員長　伊澤ケイ子
多摩市長阿部裕行様は 1956（昭和 31）年 3 月 6 日、小金井市のお生まれです。日本大学法学部新聞学科卒業、日本新聞協会に就職されました。多摩第二小学校 PTA 会長、多摩市青少年問題協議会第二地区委員会会長、内閣府「少子化への対応を考える有識者会議」委員を歴任、2010 年 4 月に第 19 代多摩市長に就任されました。著書としては「男と女で半分こイズム」など他にも多数の著書があります。簡単ではございますが紹介させていただきました。
市長よろしくお願いいたします。

例会場　京王プラザホテル多摩　例会日 水曜日 12：30～　　月最終例会 18：30～
事務局　〒２０６－００３３多摩市落合 1-43 京王プラザホテル多摩５６１号
TEL042-372-6463FAX042-372-6491　E メール tamagrc@tamagrc.join-us.jp
会長　小泉　博　　幹事　荒瀧義機
会報・記録委員長　柴崎信洋　　副委員長　大松誠二
委員　片山哲也　菊池　敏　宮本 誠　海野榮一　山田　勅

**◎卓話 「多摩市の行財政刷新計画について」**

**多摩市長 阿部 裕行 様**

例会にお招きいただきありがとうございます。まず日頃多摩市政に皆様にはいろいろとお気遣い頂いている事、先日の障がい者テニススクール開催、きっと今回の桜祭りでもご尽力頂いていると思います、感謝申し上げます。昨年は震災で市内外の行事がかなり自粛となりました。今回嬉しく感じた事は先日の日曜日、市内各地の桜祭りが盛大に行われ、かつ被災地支援などが顕著だった事です。聖蹟桜祭りでは被災地の焼そばや酒、海産物などが販売されました。浪江から焼そば大王の八島さんが出店された事も TV で紹介されましたが、前日のシンポジウムに出席しました。原発事故により多摩市にも 100 人 40 世帯程の方が避難して来ており、その多くは原発立地の八つの自治体からの避難者です。八島さんなど浪江の方も福島県新地町（多摩市も応援している自治体）の仮設住宅住まいです。放射線量が高いため浪江に戻れない、補償が進まないのでいつ帰れるかも分からない。60 歳以上の方は帰りたいと言っているが 40 歳以下の 70%、特に子どもの居る家庭では帰れないのではないかと考えているなど、厳しい話しを聞きました。同胞としても、多摩市としても原発の電気で、福島の皆さんのおかげで豊かな生活が成り立っていた、だからこそ皆さんが故郷に戻れる時代を早く作らなければと思います。とはいってもまだまだ状況は厳しく大変だと感じました。

さて 3 月に定例議会が終り、行財政刷新に取り組んで来ましたので、その中間報告をさせていただきます。多摩市は政府からの地方交付税をいただかない不交付市で市民からの税金だけでまかなっています。なぜ財政危機になったのかの原因と今後の対応を 13 回にわたって市民の皆さんに説明に行きました。多摩市行財政刷新計画の冊子をお配りしております。今回議会は通っていますので結果報告となりますが、平成 24～27 年度までに約 74 億円の歳入不足となります。原因は少子高齢化です。冊子に見る通り、26 市の中で 52～72 歳の人口がずば抜けて多い。その分、税金を払う人数が減っている、それは以前から分かっていましたが市も先送りして来ました。多摩市の人口は最近横ばいですが 65 歳以上の人口が増え生産人口が減っています。具体的対策としての施設等の見直しによる 44 億削減とは何かというと、公共施設の利用料の見直しがあります。今までの先送りの借金もかさんでおり今後も借金を続ける訳には行きません。周りの市よりもかなり利用料が格安です。市民全員が各施設を使う訳ではないので、税金でまかなう分より利用者でまかなう分を普通にして行くということに、ご理解を頂きたいと思います。来年 4 月から施設利用料金を改定致します。その他いろいろの対策として、例えば学校跡地の貸し付け、旧豊ヶ丘中学校で緊急の人道的支援で那須海城中高校を受け入れています。一年間は人道的支援で無償でしたが、今後は有償として月間 50 万円いただきます。しかし学校を学校以外の目的で有償貸しや、売却する事は国からの補助金を返還しないと不可能です。東京医療大学が南落合小学校跡に開校しましたが、大学ということで許可が出た訳です。こういう細かい事で削減して 47 億までになりました。個々の給付から全体的な支えに切り替えていきたいと考えており、そういう所の予算は増やしました。公園も生産緑地や果樹公園など、採算性と障がい者雇用などを考慮しております。この 4 年間財政対策はいたしました。ここに掲載されてないものは公共施設です。公共施設についても討論会を 4 回行いました。多摩市は他と比べて公共施設が豊富です。どこのコミセンでも 100 人以上のホールがある、そんな市はありません。これを維持する経費は大変です。今回の予算の中で TPP /PFI の研究費を織り込み、公共施設に対しても覚悟を持って取り組むつもりです。15 年後には高齢人口が 30%を越す見込みです。ここで切り替えないで公共施設を支えるだけの街になってしまわぬよう提案し説明していく心算ですが、かなり大変な事になると覚悟しています。ＨＰでも内容を詳しく載せておりますのでご覧頂きたいと思います。

さて瓦礫の話しですが、東京都が瓦礫受け入れに手を上げた時、多摩市も早い段階で手を上げました。これから女川町に行きますが今月 26 日に市民説明会を開催します。私は東日本大震災の瓦礫はしっかりと引き受けていくべきだと思います、オールジャパンできちんと支えていく事が出来なければ何の絆かと思います。一方で放射線についての心配は大きいですから、女川町のデータを把握し町長とも協議し、直接行って確認してきます。女川町の皆さんからは東京都に感謝されています。女川町は小さな町で生活している町の中に瓦礫が高く積まれ、その瓦礫をなんとかしなければ町の再興が出来ません。ある時期が来れば自前で瓦礫を生かして復興する道筋ができると思われますが、それまでは支援して行かねばなりません。それについて次の説明会で説明するつもりです。放射能の点では、女川町は多摩市と放射線量は変わりませんしホットスポットもありません。それは信用していただきたい、未来永劫引き受けるのではなく、あくまで人道的緊急支援という事でご理解いただきたいと、説明している最中です。
原発に対しても未だちゃんとしたデータが出ていない中、おそらく再稼働しないでこの夏を乗り切らねばなりません。浪江の皆さんの気持ちを考えるとその位の事はやらねばなりません。国も再稼働に関して地元の人たちの不安がないように徹底的にやらなければなりません。各原発で未だ徹底されていない、震度 6～7 に対応するだけの技術的対策、そういう所にお金をかけた上で再稼働するのであれば各知事も了承すると思われます。未だそういう状況では無い中、東京都が電力が必要だから再稼働してくれと言う事は通りません。多摩市も東京都の再生可能エネルギーの利用推進と連携して全面的に協力していくつもりですので皆さんのご協力とアイデアをお願いしたい。街造りと、被災地の皆さんと更に結びついた応援支援の両方を進めていきたいと思っております。基本財政厳しい折ですが、そこは私も譲れません。今まで豊かな生活が出来たのも福島の皆さんのおかげです。私たちは福島の皆さんを絶対に見捨てるわけにはいきません。皆様のご理解ご協力よろしくお願い致します。

**◎お礼と点鐘** **会長 小泉 博**

**（今週の担当： 柴崎 信洋 ）**